

## 取組課題・要望等に関するアンケート集計結果

取組課題・要望等	回答・提案等
<p>1 人材育成について</p> <p>(青森) 開始実施時期を未定とし、他県の取り組み状況を見て開始時期等を判断したいと考えているが、担当する講師の選定や非常時長時間となるカリキュラムの編成、各会場の確保などの多くの課題をクリアしなければならず、また円滑な事業推進のためには資金の確保が大きな課題となっている。</p> <p>(新潟) 本県では来年度からの開講を目指し、今年度は体制づくりを行うこととしていますが、魅力あるしっかりとしたカリキュラムの編成、講師の選定、講習会場や実習会場の確保など多くの課題に悩みながら進めているところです。特に最大の課題として持続可能な資金の確保をどのようにしていくか悩んでおります。</p> <p>(H<sup>2</sup>O) 人材育成の全国展開</p> <p>(千葉) 人材育成(所有者意識、修復技術者、原料生産者、資金提供者等)</p> <p>(岐阜) 岐阜県は、平成23年度から6都市で現場研修を中心に、ヘリテージマネージャー研修を行ってきたが、研修を受ける受講者が減少してきている。受講者が増えるような、魅力的なヘリテージマネージャーの資格制度が必要ではないか。</p> <p>(岡山) 各県建築士会が毎年カリキュラムを作ることにあたって、いかに全国でネットワークを組み、協力し合って、各県のカリキュラム独自性を尊重しつつ、新鮮で魅力あるものになるようにし、いかにして継続していくかが重要だと考えます。協議会としていかに各県のヘリテージの発展に寄与できるかです。寄与できるものは何か見つけることですね。</p> <p>(青森) ヘリテージマネージャーネットワーク協議会の立ち上げから、講習実施までの仕組み(講師の確保等)</p> <p>(新潟) 開講までの立ち上げの仕組みのご教示</p> <p>(富山) マネージメントの前に、歴史的建造物についての基本的な知識、調査技術、修復技術、コンバージョン手法、等の能力向上のためのテキスト、講習、実習が低費用でできるような仕組みを作ってほしい。</p> <p>(岡山) 協議会として、推薦できる講師の方の情報の提供をお願いします。 ・各県の毎年のカリキュラムの内容について、まとめて教えてもらいたい。</p> <p>(宮崎) 講師選定に、基準があれば教えてください。(全国的に一定の能力を有する専門家の育成) ・講座修了資格取得のためには、すべての講座を受講しなければいけないのでしょうか。 ・上記件関連、もし受講できなかった講義があった場合の対応をどのようにすれば良いのか。</p> <p>(宮城) 本会において、60時間のカリキュラムは、事実上「兵庫県建築士会」での内容をほぼ踏襲形とし、若干本県の地域性を加味する形で策定し、実施しようとしている。基本的には、このカリキュラムは、各県士会の自主性に任せることが基本なのだろう</p>	<p>(運営委員会として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム編成、講師、会場手配等については、すでに講習会を実施している団体に直接照会することをお勧めします。そのための全国協議会です。→活動計画案1(2)</li> <li>・「専門家育成のための参考資料集」(H23年連合会)を参考にしてください。</li> <li>・各地域のカリキュラムを集約し協議会のHP上に公開することを提案します。→活動計画案1(3)</li> </ul> <p>(兵庫、H<sup>2</sup>Oから)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会の魅力づくりは、主催者側の熱い思いがベース</li> <li>・講習会の運営は90万円が可能。30人×3万円(受講料)。(別紙2費用概算参照)</li> <li>・60時間の長丁場の講習会は仲間意識を醸成し、修了後の活動ネットワークにつながっています。</li> <li>・講師情報に関して 技術論については地域の特性を活かす観点から地元講師が望ましいと考えます。ヘリテージマネージャー総論・活動ネットワークづくり・活動展開の事例などについては兵庫から講師紹介は可能です。</li> </ul> <p>(SHECから)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会の運営は受講料で対応することが基本。50~60万円が可能です。(別紙1費用概算参照)</li> </ul> <p>(運営委員会として)</p> <p>→HMの全国展開にあたって一定の水準を確保するため「ガイドライン」を作成しました。60時間全講義受講はそのうちの一つです。受講できなかった講義については、次年度の講義を受講、次年度以降に講習会がない場合はレポートの提出・スクーリング等で対応しています。</p>

取組課題・要望等に関するアンケート集計結果

	<p>が、やはり、背骨となる「指針」は、ある程度、必要ではないかと思っている。          また、地域によっては、講師となるべき「専門家」が、地域内で確保することが困難な地域が出てくるのが予想される。広域連携的なカリキュラムの有り様も検討すべきと考える。          上記の「課題」を踏まえての要望となるが、本県を含め、これから取り組む地域に対し先進地域からの今後、いろいろな面での支援をいただきたい。特に人口の少ない県は、建築系の大学も少なく（あるいは存在しない？）状況もあり、講師を遠方より招聘する事ともなり、経費的な負担も大きくなるのが予想される。たとえば、建築士を先進地のヘリテージマネージャー講座を受講した建築士が、地元の講座の講師になる等の処置を考えてもよいのではと思っている。是非、ご検討いただきたい。これは、すでに講座を数年間実施している地域にも言えることで、最終的には、講座のほとんどの講師は、地域の建築士会会員が務める仕組みもあっていいのではと思っている。是非ご検討いただきたい。</p> <p>(大阪) 今回参加予定です。今年は文化庁の補助金を頂きHM育成講座を行っています。また、景観まちづくり建築専門家等育成講座も実施しますので、同じような講座で受講者は混乱しています。連合会はどこまで本気で取り組む予定なのでしょうか。</p>	<p>(兵庫、H<sup>2</sup>Oから)          →遠方から講師を招聘する場合、「出前講座」と位置づけて協議会（当面は連合会）から旅費等の補助を行うことを提案します。→活動計画案6(1)(2)          兵庫の場合、講習会は第12期を迎えますが、講師は実務を積んだHMが務めるようになってきています。</p> <p>(兵庫、H<sup>2</sup>Oから)          →兵庫においてもまちづくり委員会が「景観マネージャー養成講習会」を実施しています。内容としては、地域を特定してまちづくりに携わっている地域の方と建築士とが受講者となり、地域課題について実践的な研修となっています。この景観マネージャー養成は、HM養成のまちづくりに特化した上級講座という位置づけをしています。</p>
2	HMのスキルアップ	
	<p>(静岡) HMの継続したスキルアップをいかに進めるか。          (徳島) 現在のところ、徳島においては、ヘリテージ講習会の実施について、予定はありません。          毎年、養成講習修了生のための研修メニューを検討しています。貴協議会においても、取組課題のひとつに入れていただければ幸いです。指定文化財の防災設備配置や耐震改修計画について など。          (茨城) ステップアップ講習の提案または紹介。          (新潟) 受講後のスキルアップの仕組み。</p>	<p>(運営委員会として)          ・スキルアップ講習の事例収集・HP上での公開を提案します。→活動計画案1(3)</p> <p>(兵庫、H<sup>2</sup>Oから)          ・これまでアドバンスコース研修会（この指とまれ方式）で個別課題に対応してきましたが、来年度からは体系的な上級講座（仮称）実施すべく検討しています。（別紙研修会の実績参照）</p> <p>(SHEC から)          ・修了生対象のステップアップ研修を毎年2回程度実施。修了生自らが企画した現場研修が中心です。経費は受講料で対応（独立採算）。          （別紙ステップアップ研修の実績参照）</p>

取組課題・要望等に関するアンケート集計結果

<p>3</p>	<p>HM（受講修了者）の位置づけ、ビジネスチャンス</p> <p>（広島）受講修了者の位置づけを明確にすることが必要。 背景や経緯等から、各都道府県建築士会の取組み内容は様々であり、HM育成のカリキュラムの内容も多様。カリキュラム受講修了者は士会に登録されることとしていますが、文化庁や地方自治体の認定があるわけでもなく、将来的にどのように活用できるのか、受講者（受講予定者）にとって、わかりづらいのではないかと思います。各地域において、公的機関にも認知（認証）されるような登録となり、将来活用されることが見込めるような枠組みとなるよう、検討すべきではないでしょうか。特に地方においては、旅費や講習料等で高い費用負担を伴う受講は、敬遠されるのではないかと危惧しています。</p> <p>（熊本）活動の社会的な信頼を担保する仕組みづくり→文化庁のお墨付き等</p> <p>（神奈川）HMを何らかの法律に位置づける活動に取り組んだらどうか。</p> <p>（大分）HMの現状での役割（社会の中で、文化財行政の中で etc）、将来目指している役割（文化財の維持管理受託 etc）を明確にする必要があると思われる。</p> <p>（富山）HMの職能の確立。HMが地域指定の文化財等の修復に関与できるよう行政（文化庁）への働きかけ。</p> <p>（みえへりテージの会）一般国民の知名度を高めてほしい。 国・県・市町村への、HMの有効性のアピールを強く行ってほしい（全国組織を強調）</p> <p>（青森）受講修了者へのフォロー、またビジネスチャンス等の提供</p> <p>（新潟）受講生へのビジネスチャンスの提供。</p> <p>（岐阜）受講者が増えるような、魅力的なへりテージマネージャーの資格制度が必要ではないか。（再掲）</p>	<p>（運営委員会として）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、HMが全国的なものであることを周知させるため、全国協議会を設立しました。</li> <li>・全国各地でHM育成の足並みがそろった段階で、より効果的な「認証」を検討していきたいと考えています。</li> <li>・それまでは、各地域においてHMの信用と実績を重ねていくことが肝要と考えます。</li> <li>・ビジネスチャンスについては、地域の事情もあることから、信用と実績を重ねながら自らつくって行く方が近道だと考えます。</li> </ul> <p>（兵庫、H<sup>2</sup>Oから）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫の場合、県教育委員会に登録していますが、効き目はあまりありません。むしろ、信用と実績を積み重ねた地域では「一級建築士」と言うより「HM」と名乗る方が信用されています。</li> </ul> <p>（SHECから）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡の場合、行政との協議会を設置して進めています。協議会は文化財担当課、建築基準法・応急危険度判定担当課、歴史まちづくり・景観まちづくり担当課、+危機管理担当課（H25～）で構成（士会が事務局）。県市（町）の行政に認知してもらうことから始めています。</li> </ul>
<p>4</p>	<p>活動ネットワークの構築</p> <p>（茨城）HM講習スタート時における役割は大きく、全国各地に広めていくことが一番の使命と考える。とは言え、各県ごとに状況に違いがあり、次のステップとして、・・・ ○まちづくり委員会とは別の、次なる組織づくりの支援</p> <p>（H<sup>2</sup>O）活動ネットワークの構築支援</p>	<p>（運営委員会として）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動ネットワークづくりについては、すでに活動している団体に直接お聞きすることをお勧めします。そのための全国協議会です。→活動計画案1(1)</li> </ul> <p>（兵庫、H<sup>2</sup>Oから）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動ネットワークの構築には何らかの仕掛けが必要でした。兵庫の場合、「近代化遺産総合調査」を通して県下7地区の組織づくりを行いました。</li> <li>・まち歩きなど、手軽なものから実施するののも一つの方法です。</li> </ul>

取組課題・要望等に関するアンケート集計結果

		(SHEC から) ・静岡の場合、東部・中部・西部の3ブロックに窓口を設置。平常時及び非常時の活動マニュアルを作り、ネットワーク対応しています。
5	HM活動の財源  (静岡) HMの活動における調査経費等、専門家として働いた分の報酬をどのように用意するのか。(HMの活動経費の財源) (熊本) 活動維持のための資金の確保→ファンドの設立または連携、助成事業受託。 (大分) 当会は、文化庁の補助事業を財政基盤としており、今後も何らかの助成がなければ活動の継続が困難と思われる。活動継続のための財源、HMの役割の明確化への取り組みをお願いしたい。 (千葉) 活動の資金繰り。 (みえヘリテージの会) 小団体であるHMの会は、運営資金の調達の方。	(運営委員会として) ・活動財源確保もマネジメントの一つ。知恵を出し合いませんか。 →活動方針案1(1)  (兵庫、H <sup>2</sup> Oから) ・活動財源を確保するため毎年「年報」を発刊し、有償配布しています。(内容は、調査報告編・活動記録編・資料編の3編構成) ・HMの活動を原則として「有償ボランティア」と位置づけ、調査費等を提示して依頼者と契約しています。 ・規模の大きな活動を行う場合は、国等の助成金を活用しています。 ・行政に働きかけ事業実施の予算化をお願いすることもあります。(古民家再生促進支援事業、近代住宅定期点検活動等)
6	文化庁・公共団体との連携について  (群馬) 活動について公共団体の理解は不可欠と思いますが、公共団体担当者の専門外によるHMの認識不足も見受けられることから、HMの活動についての平常時・非常時の重要性についてPRしてほしい。 (神奈川) 登録有形文化財制度を支援する取組案を検討し、文化庁に提案したらどうか。(「文化庁ではプロパーの担当者が一人しか配置されていないにもかかわらず、審議会に付議するすべての建造物(年間300~400件程度)を文化庁担当者が現地調査に行くこととしているため、所有者が発意してから登録されるまで非常に時間がかかっている」と聞いています) (青森) 行政機関(県や市町村)との連携や環境整備(「まちづくり」や「観光」)のサポートや支援等、一体的な取り組みの支援 ※行政との連携は必要不可欠ではないかと考えております。 (新潟) 国と連携して都道府県の担当部局の応援を得やすい環境づくり。市町村の町並み形成や観光政策との連携方策のご検討。	(運営委員会として) ・全国協議会として、国(文化庁・国交省等)に機会があるごとに働きかけを行うことを提案します。→活動計画案3  (兵庫、H <sup>2</sup> Oから) ・兵庫の場合、当初、文化財部局との連携はありましたが、まちづくり部局との連携は困難でした。 ・古民家分布調査や地域のまちづくりに参画していくことで、実績が認められ、まちづくり部局とも連携できるようになりました。(古民家再生促進事業・近代住宅定期点検活動等) ・行政との連携については、行政の担当者にHM講習会を受講していただくことも効果的です。  (SHEC から) ・SHECは景観整備機構の内部組織です。歴史的建造物を広くとらえ、文化財・建築の単体としてとらえるだけでなく、まちづくりの貴重な素材として考えています。県市町行政のまちづくり担当課と連携しています(前述:協議会設置)。

取組課題・要望等に関するアンケート集計結果

7	<p><b>全国協議会の役割－情報交流</b></p> <p>(茨城) メーリングリストだと登録者に全情報が送信されるため煩わしく感じる。会員自ら情報を取りに行き情報交換できる場と考えると Facebook でHM専用の非公開グループをつくるか、連合会のホームページにリンクを貼り、協議会メンバーが自由に書き込めるブログにするなど…検討が必要。</p> <p>(千葉) 各地域ごとの活動状況の共有</p> <p>(愛媛) 先進県の情報や人員を、近隣県に提供しやすいシステムをつくる。</p> <p>(群馬) 25年8月第1期講習が終了したばかりであるため、ネットワーク化および活動これからという事から、活動の活発化のため、全国の活動状況を共有のできる情報の提供をしてほしい。</p> <p>(徳島) 参加団体が、全国で、さまざまな活動をされていると思いますので、活動内容情報を共有できるような仕組みを期待します。</p> <p>(千葉) ・団体間の連絡、共有事項の整理</p> <p>(岐阜) 他県の状況を具体的に知る、交流の場を定期的に設けてほしい。 ・また、連合会が全国の状況を調査して、報告してほしい。</p> <p>(愛媛) ・全国の活動の状況が分かるように、取りまとめたものを連合会のホームページ等で閲覧できるようにしてほしい。 ・特に修理については件数も少なく、その割に方法が多様多様なので、改修例をたくさんまとめた冊子等の作成をして欲しい。</p>	<p>(事務局として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換の場として、Facebook の設定を検討します。</li> </ul> <p>(運営委員会として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現段階においては、メーリングリストでの情報交流の促進と、年1回、各地域の活動記録を集約し協議会のHPに掲載することを提案します。→活動計画案1(1)(2)(3)</li> </ul> <p>(兵庫、H<sup>2</sup>Oから)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会として、全国の講習会実施状況や活動状況および参考となる資料(技術的・法的な資料)をまとめた冊子を毎年発刊し、有償配布することで協議会の活動財源の一部とすることを提案します。</li> </ul>
8	<p><b>全国協議会の役割、活動財源、その他</b></p> <p>(静岡) 各県、各ブロックにおける平常時だけでなく、非常時のネットワークのあり方。</p> <p>(H<sup>2</sup>O) ①ネットを活用した情報交流、②ホームページ(連合会)の活用、③出前講座の実施、④協議会の財源確保の方策</p> <p>(福岡) 協議会の参加団体には先進団体もあれば講習会を始めたばかりやこれからの団体もあります。参加団体がある程度、足並みがそろうまでの活動として先進地での総会および大会を開催し、活動報告や現場見学会を入れてはどうでしょうか。 また、職方の後継者育成及び伝統技術の再構築が必要と思われます。是非、協議会の大会に職方の参加と育成及び情報交換等ができればと思いますが如何でしょうか。</p> <p>(栃木) 全国大会開催時に1回ではなく、ブロック単位などで意見交換会を年に何回か開催してほしい。</p> <p>(福岡) 全国的にHM養成講習会を60時間の講義、演習が行われ、また、上級コースの養成も行われている団体もあるようですが、協議会で修復技術とまちづくりのスペシャリストを養成する講座を短期で行ったらいかがでしょうか。</p> <p>(千葉) ・他団体(建築学会、地域のNPO法人等)との連携について ・官公庁・行政・地域住民への広報について</p>	<p>(運営委員会として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動財源については、協議会としての活動に要する経費を試算した上で、運営委員会において継続して検討していきます。→活動計画案6(1)</li> <li>・全国47都道府県の大半が協議会の会員になるまでは、協議会は会費なしで運営を行うことを提案します。→活動計画案6(2)</li> <li>・その間、連合会は可能な限り協議会に対する支援を行うことを提案します。→活動計画案6(3)</li> <li>・当面の間、全国HM大会と全国HMN協議会総会は、建築士会の全国大会に合わせて開催することを提案します。→活動計画案5</li> <li>・ブロック単位の意見交換会を実施することを提案します。→活動計画案4</li> <li>・そのため、各ブロックの代表が運営委員になることを提案します。→活動計画案4</li> </ul>

取組課題・要望等に関するアンケート集計結果

(KOMO)・ここ数年続いている異常気象や自然災害時などにHMネットワーク協議会を通じて、各地域への応援、ボランティアなど、全国的な横のつながりができればと考えます。

・各地域特有の歴史的建造物の見学会や勉強会なども企画していきたいと思います。

(茨城) 連合会と切り離して協議会がスタートしているが、単位士会においても認識が同じになるのか?? HM講習継続実施に資金の確保が課題。

茨城はHM講習2期目であるが、これまでのまちづくり活動より地域、行政、士会員の反応も良く、持続可能な資金の確保を心配していることが本末転倒と感じてきた。これまでの無駄な事業を整理し、士会の使命と将来性を感じるこの事業を士会活動の大切な位置に昇格できないものか。

HM講習実施に関わる会員(当県はまちづくり委員)は、年会費を払い、時間を割いてHM講習実施を支え、士会の活性化を担っているのに・・・

連合会においても同じで、別組織の理由はわかるが、全国HM大会の会場費、講師招聘のための経費まで心配していることに矛盾を感じる。

予算の問題があり話題にしていけないと思うが、運営委員会のブロック化を望む。

(静岡) 活動財源の確保(年1回開催の全国協議会の旅費を連合会で予算確保していただきたい)

(H<sup>2</sup>O)・遠方から講師を招聘する場合の交通費補助

- ・各地域の活動をまとめた「年報」の発刊
- ・運営委員会の拡充
- ・全国HM大会の継続
- ・上記実施のための財源確保の検討(会費・書籍販売・他)

(大阪) 建築士会と協議会の位置づけが不明です。

協議会が建築士会内に存在すれば、全面的に建築士会の協力が得られるのですが、並列ならば、協議会は任意団体で、すべてボランティア活動となり実効性がありません。大阪府では、今回、実行委員会で育成講座を実施していますが、建築士会の全面的な協力が得られず、苦勞しています。

協議会は建築士会の中に設置するものとしてもらえないでしょうか。

(連合会として)

・全国HMネットワーク協議会は、地域のHMのネットワーク組織で構成する団体です。

連合会は、同協議会の賛同団体に加わることで、連合会事務局が同協議会事務局として、所要の協力支援を行っています。

また、連合会はHM活動活性化のため、本年度、九州ブロックにおける被災歴史的建造物の調査・復旧に係る模擬訓練の支援や被災歴史的建造物の調査・復旧マニュアルの作成などに取組んでいます。

旅費支援について、連合会の既存の全国的協議会(青年委員会等)の旅費を削減している厳しい財務状況をご理解下さい。

地域のHMネットワーク組織の立上げなどへの建築士会の支援は必要と考えますが、立上げ後のあり方については、全国HMネットワーク協議会でも検討して下さい。

<別紙1>

平成 24 年度「地域文化財専門家育成研修」経費まとめ

公益社団法人 静岡県建築士会

○収入

	金額	摘要
受講料	252,000	@28,000×9名(会員)
"	240,000	@30,000×8名(新規:非会員)
"	6,000	@3,000×2回(未修了生2名)
"	30,000	@3,000×10回(修了生再受講スポット参加7名)
合計	528,000	

○支出

	金額	摘要
講師謝金(交通費含む)	300,396	講師10名
会場使用料	40,400	常葉大学サテライトキャンパス5、県産経会館1、鈴木家1
現場研修御礼	10,000	鈴木家
スタッフ交通費	23,880	準備・進行等延べ11名
研修テキスト代	14,000	日本建築士会連合会@1,000円×14(+3は在庫)
研修資料コピー代	18,940	第1回～第7回両面@12×1,061枚、片面@8×776枚
報告書印刷	105,000	A4-75P・200部
事務局経費	15,384	
合計	528,000	

地域文化財専門家・ステッパアップ研修

公益社団法人 静岡県建築士会

	日時	内容	講師	参加人数	経費(受講料)	備考
H21	11/27	日本製紙(株)鈴川クラブの建築物の見方・調べ方、実測のしかた(富士市鈴川)	建部恭直	16 (16・0)	32,000 (2)	
H22	5/23	旧榎田医院実測調査(静岡市清水区蒲原)	—	10	—	
H23	2/4	保存調査から修復・活用案、そして実施設計へ(修復の方針と具体的方法を検討するWS)	木村勉	23 (20・3)	95,000 (4・5)	
H24	5/19	御穂神社修理工事現場研修(静岡市清水区三保)	増田千次郎	17 (14・3)	37,000 (2・3)	
	1/12	文化財建造物の防災計画と実地演習(磐田市、府八幡宮)	後藤治 関澤愛 他	17 (10・7)	41,000 (2・3)	日本火災学会 と共催 (予定)
H25	10/26	歴史地区の建物の修理・修景	木村勉		(3・4)	
	11/23	民家の見かた・調べかた	増田千次郎		(2・3)	(予定)

\*参加人数及び受講料の括弧は、(会員・非会員)、単位:千円

「兵庫県ヘリテージマナー養成講習会」概算経費まとめ

公益社団法人 兵庫県建築士会

○収入

	金額	摘要
受講料	600,000	@30,000×20名(会員)
〃	360,000	@36,000×10名(非会員)
補講料	32,000	@400×80時間回(未修了生10名)
合計	992,000	

○支出

	金額	摘要
講師謝金(交通費含む)	500,000	単価12,500円/時間(現場演習は半額)、公務員は辞退。
会場使用料	70,000	大学との共催により使用料免除など、経費節減を図る。
講師交通費	60,000	可能な限り地元講師を選定。東京から1名。
スタッフ交通費	170,000	準備・進行等の薄謝含む。
研修資料コピー代	100,500	@5×600枚×35部。事務局にて印刷。
事務局経費	91,500	
合計	992,000	

アドバンスコース研修会

(メンバーがテーマとフィールドを準備してネットで受講者を募る「この指とまれ方式」・独立採算を基本とする)

ひょうごへりテージ機構H<sup>2</sup>O

回 年	内容	講師	参加 人数	経費 (受講料)	備考
1 2006	登録文化財申請のための写真撮影	村上裕道 (県教委)	30	15,000 (500)	講師料辞退。 資料費以外は地区の活動 経費に。
2 2007	登録文化財申請のための所見作成	村上裕道 (県教委) メンバー	30	同上	同上
3 2007	旧グッゲンハイム邸で学ぶ保存活 用手 法 (全2回)	メンバー	延60	30,000 (500)	講師料1万円 資料費以外は地区の活動 経費に。
4 2008	木と道具から木造建築を読む(全2 回)	竹中大工道 具館	延60	同上	講師料3万円
5 2008	伝統木造の耐震診断と構造補強 (全10回)	四宮忠明 他	延300	150,000 (500)	講師料は国の助成金を充 てる。 受講料はスタッフ経費。
6 2009	古民家再生事例見学会①	メンバー	25	12,500 (500)	講師料1万円 残額は印刷費
7 2010	古民家再生事例見学会②	古民家再生 部会	22	11,000 (500)	古民家再生部会の活動費 に。
8 2011	拓本の取り方教室	西宮市郷土 資料館	20	10,000 (500)	講師料1万円。 材料費等はH <sup>2</sup> O会計か ら支出
9 2013	高砂神社能舞台・高砂や(尾崎家) 見学会	古民家再生 部会 メンバー	21	10,500 (500)	講師料5千円。 残額は印刷費等。